



KYOTO SEIKA UNIVERSITY
CENTER FOR EXHIBITION PLANNING
ACTIVITY REPORT 2023

京都精華大学
展示コミュニケーションセンター
2023年度活動報告書



KYOTO SEIKA UNIVERSITY
CENTER FOR EXHIBITION PLANNING
ACTIVITY REPORT 2023

京都精華大学
展示コミュニケーションセンター
2023年度活動報告書

目次 | CONTENTS

2023 年度活動サマリー	05
---------------	----

教育普及事業／新規展示スペースの調査・選定

アートをおく3	08
アートをやる3	12
新規展示スペースの調査・選定	16

展覧会

侵色：開始	24
リュウ・イティン個展「不夜城 Sleepless Town」	26
小田隆展「Art & Science」／小田研究室大学院生合同展「ばけものぼこ」	28
キャラクターデザインコース必修科目「企画の作法」授業成果展	30
こんなキャラクターが精華にいたらいいな～	
ギャラリー Terra-S 前期企画展	32
「デザインング・ダンボール & ダンジョンー遊びのデザインを探るー」	
合同陶芸展	36
フォック・チン個展「You are Invited」	38
プロジェクト SaShiMi「海闊天空」	40
Haliyaa 個展「平凡な一日（エンギーン ネッグ ウッドル）」	42
MI	44
CAMERA OBSCURA ～音と映像の遊戯室 京都精華大学展	46
京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第26回華展「さゆらぎ」	48
木野祭 2023 作品展示会「闇鍋」	50
京都精華大学 55周年記念展「FATHOM 塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン」	52
浜村満果個展「9 Hours Sleep」	56
Gallery Hibika-S ― 音響空間を展示する ―	58
温度と湿度	60
Kaleidoscope：藤井俊治／柴田精一	62
プロジェクト企画演習 2023 成果展	64
京都精華大学展 2024 大学院修了発表展	66
池垣タダヒコ退任展「リボンと角柱 ― オリジナリティを探して」	68
高校生のための第5回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2024」入選作品展	70
香老舗 松栄堂 薫習館 展示壁利用	72

来場者数・参加者数	74
施設案内・ギャラリー図面	75

2023年度 展示コミュニケーションセンター構成員

伊藤まゆみ | 展示コミュニケーションセンター長／展示コミュニケーションセンター特任教員

豊永政史 | デザイン学部教員

宮永亮 | 芸術学部教員

飯澤ちあき | 経営企画グループ員

熊谷徹 | 総務グループ員

齋藤雅宏 | 学長室グループ員

服部静枝 | 創造戦略機構長／国際文化・人文学部教員 ※陪席



2023年度活動サマリー

展示コミュニケーションセンターの3つのミッションに基づいて、2023年度に実施した各事業について報告する。

MISSION1

学生を主体とした展示活動支援のあり方を検討提案

① 新規展示スペースの選定

センター員の豊永と熊谷が担当し、明窓館内の新規展示スペースとして、二階エントランス、一階と二階ホワイエほか計五か所程度を図面化し、利用申請書の様式の作成を行った。本スペースの利用申請代表者は教員のみとし、授業の成果発表展などを目的とした場所として利用されていく予定である。〈p.16-21〉

② 教育普及事業

センター員の宮永がインストール・ワークショップ「アートをおく3」〈p.8-11〉を、齋藤が座談会&相談会「アートをやる3」〈p.12-15〉を担当した。「アートをおく3」は22名の参加があり、展示スキルを学ぶ機会が少ない学生達の意欲的な参加が目立った。また、9/9から15までをビューイング期間としてその成果をギャラリーで展示した。座談会&相談会「アートをやる3」は44名の参加があり、表現活動が続けることに悩む学生達から多数の相談が寄せられた。

MISSION2

企業等との連携企画事業の促進についての検討・提案

① 企画展の企画・運営

センター員の伊藤が担当し、センター員の齋藤や他メンバーの協力を得て実施した。前期企画展は、企画者にメディア表現学部教員の伊藤ガビン、コラボレーターに本学非常勤講師でエドゥケーターの会田大也氏を迎えて、「遊びのデザインを探る」

をテーマに観客の手によって改変可能なダンボールを主素材とした「迷路」を制作した。メディア表現学部 of 授業内容と連動しつつ、大人も子供も楽しむことができて、鑑賞も可能な体験型展示となった。〈p.30-33〉

後期企画展「FATHOM－塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン」は開学55周年記念展として、本学芸術学部教員の吉岡恵美子と伊藤による共同キュレーションを行い、本学芸術学部で洋画を専攻した塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエンの三人展を開催した。出品作家や展覧会 of 話題性もあって、企画展史上最多 of 約4,500名 of の入場者数となった。ギャラリーTerra-Sに初めて来場したという観客が8割を占め、ギャラリー of SNS of フォロワーも急増するなどの反響があった。〈p.50-53〉

②外部機関との連携企画の実施

センター員 of 飯澤と齋藤が担当し、松栄堂薫習館一階で推薦と公募によって選出した本学卒業生及び在学学生による展示を7展行った。〈p.70-71〉

MISSION3

ギャラリーTerra-Sでの学生 of 展示・発表 of 支援

①申請展覧会 of 運営

本学在学学生、教職員、卒業生を対象とした申請展を前期と後期 of 二回に分けて募集を行い、センター員全員が審査員となり選考会を行った。年間をとおして在学学生7展、教員8展、卒業生1展 of 合計16展 of 利用があった。実施に向けたアドバイスや搬入・搬出等 of サポートについては、センター員 of 齋藤が主に担当した。

②展示コミュニケーションセンター及びギャラリーTerra-S of 運営

センター員 of 伊藤と齋藤が担当し、ギャラリーTerra-S of 施設管理、メンテナンスなどを円滑に行うほか、ギャラリーや展覧会 of 広報として、WEBサイトやSNSを活用した情報発信を随時実施した。また、企画展 of 広報の試みとして、Instagramを使った広報を専門家に依頼し、バナー of 作成や投稿の一部などを委託した。その効果もあり、会期中にフォロワーが約300フォロワー増加した。また、木野祭展示会や京都精華大学展、SEIKA AWARDにおける学生や教職員 of ギャラリー利用に際してサポートを行った。展示コミュニケーションセンター of 一年間の活動を記録した本報告書は、学内外の関係者や関係機関へ適宜配布する予定である。

終わりに

ギャラリーTerra-S of 開館2年目を迎えて、今年度は開館の年に比べて落ち着いて安定した運営を行うことができた。教育普及事業「アートをおく&やる」も3回目を迎え、センター員 of 経験値やチームワークも向上し、企画 of 完成度も高まった。また、企画展も回を重ねることで、収蔵品を活用する展覧会、活躍する卒業生や教員を紹介する展覧会、教員 of 研究テーマを発信する展覧会といった3つの方向性ができつつある。

2018年度に設置された展示コミュニケーションセンターは、今年度末に活動を終了し、次年度からギャラリーTerra-Sは、新たに発足する「京都精華大学ギャラリーTerra-S運営委員会」のもと再スタートを切ることとなる。展示コミュニケーションセンター of 活動目的であった「本学 of 教育研究活動 of 成果を積極的に発表し、地域社会との連携や交流を図るとともに、広く芸術・文化 of 教育研究活動に資する企画展覧会・報告会を実施することで大学教育 of 発展と地域社会 of 振興に寄与すること」¹から今後の活動 of 方向性が大きく変わるわけではないが、「センター」という時限的な体制から、大学を代表する展示施設として、また、博物館指定施設としてより社会に開かれた活動が求められることになるだろう。

今後のギャラリーTerra-S of 課題としては、第一に、博物館指定施設として、多様な人達が利用しやすいように施設 of アクセシビリティを向上させること。第二に、将来的に大学 of 収蔵作品を安全に管理し、企画展をとおして社会に還元すること。第三に、本学学生を含め様々な参加者が集うプログラムの実施をとおして、ギャラリーがアートや展示を通じた人材育成の場となること等があると考えている。

開館3年目の年となる次年度は、前述の課題解決に向けた準備の年となるだろう。センター of 6年間（筆者が在籍したのは5年間だが） of 蓄積を大切にしながら、さらにギャラリーが魅力的な場となるよう努力していくつもりである。また、2018年から2023年までセンター員としてセンター of 活動を支え、ギャラリー of 開館準備及び運営にご尽力くださった教職員の皆さんに感謝の意を伝えたい。

展示コミュニケーションセンター長 伊藤まゆみ

¹ 京都精華大学展示コミュニケーションセンター規程より

アートをおく 3

会 期 2023年9月7日(木)ー9月8日(金)
 時 間 11:00-17:00
 ビューイング 9月9日(土)ー9月15日(金) 11:00-18:00
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
 主 催 京都精華大学展示コミュニケーションセンター
 企 画 豊永政史、宮永亮
 ゲスト講師 武田俊彦、齋藤雅宏



シリーズ第三弾となる「アートをおく3」は、本学の夏休み半ばの9月初旬に開催された。人文学部、国際文化学部、メディア表現学部、芸術学部、デザイン学部、マンガ学部の22名の学生及び教職員が参加し、前年度に引き続いてタケダ工作所代表・本学非常勤講師である武田俊彦氏と、本学ギャラリーTerra-Sの展示コーディネーターである齋藤雅宏氏をゲスト講師に迎えた。まずは両氏による「インストール」

に関わるトークセッションからイベントをスタートし、その後基本的な展示技術のレクチャーを実施。参加者は5グループに分かれ、ギャラリーTerra-SのA区画内の5ヶ所にて、与えられた指示書と材料を元にグループワークを開始した。本シリーズに通底している「それ自体としては作品ではない」素材を、如何にして与えられた空間に「アートとしておく」か、という問いに主体的に対峙する2日間が始まった。



Order1

ブルーシートによる空間構成

与えられたブルーシートから3枚を選び、空間に「深く重なる青」を想像し、展開してください。
 尚、鑑賞者が作品の下を歩いて通れるように構成、展示してください。

材料:ブルーシート 4枚



Installer: 久保木要／中城祿磨／中村琴梨／三枝鈴音

「深く重なる青」というキーワードを元に、マンガ学部、国際文化学部、芸術学部、メディア表現学部の学生と助手によるグループが取り組んだ。サイズや縦横比の違うブルーシートという、大きな平面的広がりを持つ材料を使い、それらをワイヤーによるテンションで空中に固定したり、折り重なるように造形する、という難易度の高い作業に粘り強く取り組み続けていた。シンプルながらも空間を広く支配する事に成功した展示となった。

Order2

タブローによる空間構成

壁面に掛けて展示することが多いタブロー(平面作品)を空間に持ち出すことで生まれる物質性、それによって醸されるインスタレーション空間を考察し、展示してください。

材料:B1パネル10枚、A1パネル6枚、B2パネル6枚



Installer: 河野萌／澤明希／朱芸然／松本玲果

マンガ学部、芸術学部、メディア表現学部の学生と助手によるグループが取り組んだ。絵画のイメージが描かれていない、単なる平面表現の支持体としての木製パネルを、立てかける、吊るす、打ち付けるといったバラエティーに富んだ方法で空間の中に動的に配置し、また閉鎖的な小部屋という、与えられた空間の薄暗さを利用し効果的なライティングを施すことで、物体のみならず光と影も空間構成に取り込むことに成功していた。

Order3

映像による空間構成

「映像と支持体」というテーマについて考察しながら、与えられた材料を用いて「空に浮く映像」を展示してください。

材料:木枠2枚、プロジェクター2台、メディアプレーヤー2台、映像2編



Installer: 東頌一郎／河野友里子／原田菜太／安井雪乃／山中美優

人文学部、デザイン学部、芸術学部、マンガ学部の学生によるグループが取り組んだ。実体や質量の無い投影映像と、アート作品の物質的な基本概念である「支持体」という言葉の解釈を考察しながら、映像投を壁面のみならず床面にも投影するなどの工夫を重ねた。投影映像と、キャンバスが貼られていない骨組みのみの木枠の特性を組み合わせ、投影映像が作り出す影を展示に取り込みながら、概念的なテーマにじっくりと取り組んでいた。

Order4

椅子による壁面構成

椅子と名称されるプロダクトを深く考察して下さい。そして、椅子を壁面へと展開させることで叶えられる「新たな椅子の存在」をレイアウトから探索、配置し、展示してください。

材料:椅子12脚、金物



Installer: 池田慎之介／光本音緒／泊博子／平田航基

芸術学部、デザイン学部、国際文化学部の学生と助手によるグループが取り組んだ。椅子の壁面への構成という指示書の作業に取り組む中で、日常的な重力感覚を問い直すことにとどまらず、材料である椅子の形状の同一性や複数性を活かしたアプローチが見られた。壁面から床面までを広く使い、連続的でリズムカルなバウンド・転がり運動の軌跡を模して椅子を配置し、空間表現をするという発想の転換が光る展示となった。

Order5

自然物による空間構成

与えられた自然物をよく観察し、展示台や照明の効果を活用し、オブジェとして空間に展開してください。同時に床面、壁面への展示も試みてください。

材料:流木、竹、藁、石、ユーカリの枝、豆



Installer: 青木香里奈／井川智尋／鈴木智子／森川千寛／LIU JUNRU

メディア表現学部、芸術学部、マンガ学部の学生によるグループが取り組んだ。一口に自然物と言っても、様々なディテールやスケールの異なる種類の材料が与えられた中で、個々の材料の特性を注意深く吟味しながら構成を決めていた。壁面展示や展示台などのオーソドックスな平面・立体展示の文脈を取り入れながらも、それぞれの物体のボリュームや形状を活かし、物体を空間化するようなアプローチが試みられていた。



ワークショップ2日目の最後には、武田、齋藤両氏に加えて、本企画の企画者である豊永、宮永も加わってのレビューを行った。各展示へのレビューに加え、4名が今回の各グループの展示と繋がりを持つであろう、美術作家の過去作の資料を用意し、その資料を提示しながら展示と比較、解説を行うことで、参加者への更なるアートへの理解や、問題意識、アートそのものへの批評性の喚起に努めた。明窓館各所を利用した前年度の「アートをおく2」に比べ、今回の開催はギャラリーTerra-S内のみに範囲を絞った開催としたこと、また基本的な展示技術の初日のレクチャーも取り入れたことも功を奏し、作品展示の初心者も含む様々な学部の学生たちにも、高いレベルでの展示作業を行なってもらうことが出来たと考えている。ワークショップ終了後の一週間は、完成した展示をそのまま展覧会として見ていただくビューイング期間を設け、成果を広く内外に提示した。年度毎、計三回開催してきた本シリーズを通じて、またインストールという実際の作業を通して、アートのノウハウと意義を、より深く教育として広める事業をセンターとして遂行できたと考えている。

芸術学部教員 宮永亮

アートをやる3

会 期 2023年10月12日(木)
 時 間 16:30-18:30
 会 場 京都精華大学明窓館1F キャリアパーク
 ゲ ス ト 川良謙太(VOU／棒オーナー)
 鮫島ゆい(アーティスト、GURAスタジオメンバー)
 高橋タカ(メトロポリタン福寿創、スタジオ・ツキミソウ 運営)
 モデレーター 齋藤雅宏(京都精華大学ギャラリーTerra-S 展示コーディネーター)
 主 催 京都精華大学展示コミュニケーションセンター
 企 画 齋藤雅宏



京都でオルタナティブ・スペース¹に携わる川良謙太と鮫島ゆい、高橋タカをゲストに招き、大学卒業後の制作環境に関する悩みや、表現活動の迷いについて考える座談会&相談会を実施した。本学の芸術学部、デザイン学部、芸術研究科、マンガ研究科、人文学研究科の学生、卒業生及び教員、他大学学生と一般を含む44名が参加した。

当日、3名のゲストによる活動紹介の後、座談会と相談会として参加者から事前に受け付けた質問をもとに、話し合う時間を設けた。本イベントを通して「表現の力」を社会で活かすための動機付けやヒントを得る機会になることを目指した。参加者からは様々な質問が投げかけられ、ゲストの言葉に真剣に耳を傾ける様子がみられるなど、熱を帯びた会となった。



活動紹介

川良が運営するショップ&ギャラリー「VOU／棒」は2015年に京町家を改装し開業。2019年に元印刷所の3階建のビルに移転。1階の展示スペースでは企画展を開催、2階のショップスペースではアーティストの作品やZINE、陶器、VOUオリジナルプロダクトなどを販売、3階のイベントスペースではポップアップなどを展開している。ビル全体がアートコミュニティのプラットフォームであり、新しい表現が生まれる場を目指している。

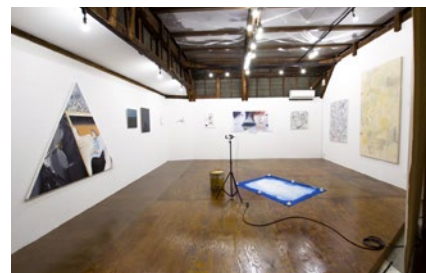


棒ビル1Fギャラリーの様子「Get湯!デトックス at.VOU/棒」(2021年)

川良はアーティストとお店の新しい関係性を探り、VOUの空間を舞台にアーティストと一緒につくる感覚を確かめ合うように活動を展開し、マーケットも育んでいる。川良は「最初は作品をグッズに展

開して販売することから始まり、自分でプロダクトを手掛けたり、展示のための空間をつくったり、段階的にお店の活動が大きくなったが、当初からの自分たちの身近にいる面白い人たちの作品を発信する場所にしたいという思いは変わらず、ぶれていない。」という。

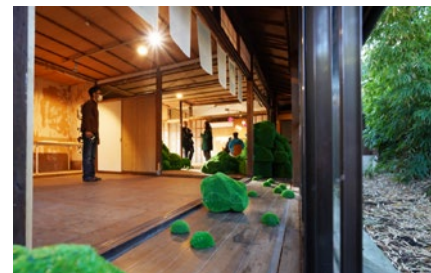
鮫島が参加する共同アトリエ「GURAスタジオ」は2009年に元酒蔵の建物を改修した共同アトリエで、設立メンバーが自身で改修をおこなった。以降、メンバーの入れ替わりを重ね、現在は7名のアーティストが入居しており、それぞれ絵画やインスタレーションなどの手法や、漆など様々な素材で制作をしている。



GURAスタジオ/ギャラリーの様子「OPENING EXHIBITION」(2020年)

コロナ禍の2020年にはスタジオ内に展示スペースを設け、定期的にオープンスタジオや展覧会を開催している。2023年、百貨店ギャラリーの企画に「GURAスタジオ」として出展し、作品を展示販売するだけでなく制作過程や背景をマーケットで伝える試みを行った。スタジオメンバーはアーティスト個人とコミュニティ、社会の関係性について模索する。鮫島は「コロナ禍で作品を発表する場所や機会が減ってしまうかもしれないという危機感があり、自分たちで展示スペースをつくることにした。」「京都は共同アトリエが多い地域でアーティストのコミュニティが様々な活動を展開してきた。ここ10年はフェアやイベントなど、盛り上げる動きがあり、共同スタジオの活動やアーティストのコミュニティのあり方は変わっていくのでは。」という。

高橋が運営するアーティスト・イン・レジデンス施設「メトロポリタン福寿創」とスタジオ・ギャラリー「スタジオ・ツキミソウ」は2018年にレジデンスプログラムを開始。メトロポリタン福寿創は最大3組のアーティストが滞在できる施設で、世界的アーティスト・イン・レジデンスプログラムの世界的ネットワーク「Res Artis」に参加している。



スタジオ・ツキミソウの様子「OPEN STUDIO 2211」(2022年)

スタジオ・ツキミソウは福寿創に滞在中のアーティストの制作場所であり成果発表のオープンスタジオや展覧会が行われる。2階は地元アーティストの共同アトリエとしても運営している。古い民家を改修したスペースである両施設と周辺の地域文化がアーティストに発見や気づきをもたらし、制作のきっかけになることを目指す。高橋は「まったく違う環境に身を置くことを楽しめるアーティストに来てほしいと考えている。ここでの滞在をアーティストも楽しんでいて居心地が良いようだ。」という。

¹「alternative」は代替性を意味し、オルタナティブ・スペースとはその時代の主流に対して相対的な立場で活動する主体である。美術館やギャラリーでもない、既存の枠組みにとらわれないその活動は自由な表現活動の場でありコミュニティを育む場でもある。その内容は共同アトリエや多目的なイベントスペース、アーティスト・イン・レジデンスなど様々だ。活動の特徴や性格としては「インディペンデント(自立的)」、「ワークインプログレス(進行形)」、「新しい関係性」、「セルフ・エデュケーション(自ら学ぶ)」がみられる。



座談会 & 相談会

1. 表現活動をするために不安に思っていることや悩んでいること

収入と仕事にともなう責任について。／アーティストとして成長する方法。／制作時間の確保とモチベーションの維持など。

川良「アーティストも個人事業主なので、自分でつくったものをどういうふうに売っていくかを考える。自分の武器が何かを考えるのはアートに限ったことではない。人のつながりで始めた小さい仕事からお客さんがつき始めて、どんどん広がって制作だけで食べていけるようになるひともいる。つくる現場でつながりは生まれるので、個人的にもそういった機会を設けられたらと思っている。」



鮫島「私の場合は制作と発表に重きを置いている。フルタイムワーカーだった時期も、忙しさを言い訳

にせず自分が納得する本当に良い作品を制作することを考えていた。アートは生き方だと思うので、目標に対して逆算するのではなく、日々黙々と取り組んでいる。どんな状況でも生涯をかけて制作し続けていきたい。」「アーティストは作品制作だけではなく、話して伝えることが必要な場面があるため、接客業のアルバイトは個人的に良い経験となった。」

2. 理想の活動のあり方

創作活動で安定した収入を得たい。／ギャラリストやキュレーターと二人三脚で活動をしたい。／孤独にならないように活動を続けたい。／みんなに美術に関心を持ってもらえるようにしたい。／活動をつうじて人に影響を与えたい。

川良「VOUのギャラリーではアーティストが一番やりたいことをやってもらって、それを継続させるために違う部分で稼ぎをつくるのが僕の仕事だと思っている。オリジナルプロダクトなどをつくったりなど、VOUでやっている様々なことが相互に作用している感じがある。現場の経費だけではなく、制作費も出していけるようにしたい。」

鮫島「共同アトリエは制作の悩みをメンバーで共有できる居場所。普段は個人で活動しているが、みんなの賛同が得られればグループとしても活動

できる柔軟さがあるのはよい。」



高橋「やる前にゴールを求めすぎず、旅の途中でどれだけ楽しいことをやっているかが大切。旅行先はテンションが上がるし、普段とは違うインスピレーションが湧いたりするので、レジデンスプログラムはアーティストにとって理にかなっている。」「オープンスタジオでみせる作品自体は未完の状態の場合もあるが、アーティストとおしゃべりをして彼ら彼女らの考えていることを聞きながら作品を楽しめる機会だと思う。緩やかな空気感は敷居が低く感じて来てもらいやすい。」

3. その他

結婚、出産、転職などのライフイベントと表現活動のバランスについて。

川良「結婚や出産などで活動を休んだり、制作のスピードが落ちるのはアーティストにとって大きな出来事だと思う。お店の立場から言うと、その作品を作れるのはその人しかいないとなれば戻ってくるのを待ちたいので、しっかり目の前の事に専念してほしい。」「出産したことで世の中の見え方が変わって、作風も変わるという話を聞くと、作品は人だと思うのでそれもとてもしいと思う。」

鮫島「それぞれが置かれている状況と、パートナーや家族次第かもしれない。制作を続けるためには周りの協力や理解が必要。アーティストではあるけども一人の人間として何が幸せかを考えて、不幸せになるような道は選んでほしくない。」

高橋「私自身、最初は安定した仕事ということで公務員として働いていたが、合わなかった。当時呑みに行っていたお店で人と話をしていたら、クラブをやろうと思っているという話を聞いて、雇ってほしいと願い出た。周りに反対されながらもどうしてもやりたかったので、後先考えず動き出していろいろ大変だったが、うまいこと乗り出した。クラブのオーナーと理想を共にしていたが、夜の仕事を体力的に辛くなったことと、次の仕事をやってみたいということで今の活動を始めた。」



左から：高橋タカ、鮫島ゆい、川良謙太

振り返って

イベント終了後にはゲストに個人的に質問する参加者が多かった。またの開催を希望する声と今回のように幅広い世代や様々な属性の人たちが集まり、話し合う場がほしいという声が聞かれた。ゲストの川良と鮫島は本学の卒業生であり、在学生にとっては活躍する先輩として身近に感じる良い相談相手となった。また、年長者の高橋のユーモア溢れる言葉に、「楽しむこと」の大切さを改めて気付かされた参加者も多かったのではないだろうか。会場のキャリアパークは本学キャリア支援チームが管理するスペースで、進路・就職相談ができるサロンや参考書籍が並ぶライブラリーなどがある。

偶然にもこの座談会&相談会がキャリアパークのオープン後の初めてのイベントとなった。参加者にとってオルタナティブな進路や生業について考えるきっかけとなったことを期待する。

学長室グループ員 齋藤雅宏

新規展示スペースの調査・選定

旧明窓館が解体され、ギャラリー Terra-S が完成するまでの間、本館1Fスペースの「本館ギャラリー」や観山電鉄出町柳駅の「サテライトスペース Demachi」など、小規模の空間をギャラリーに転用しながらなんとか運用してきたが、その間、利用者からは「小規模で使いやすい」「気軽に展示できるのがいい」などの意外な好意見を多くいただくことがあり、本格的なギャラリー以外にも、申請応募手続きや広報物印刷などの準備が不要で、より簡易に作品展示ができる場所へのニーズがあることに気がついた。

一方、本学は美術系大学でありながら、キャンパス内や建物に作品の気配が希薄なので、ギャラリー以外の空間や屋外などにもっと作品を展示してユニークな大学をアピールすべきとの意見も多数聞いてきた。

そんな中、新築の明窓館には広場に向けて大きなガラス面がせりだすギャラリー Terra-S が設置され、今後本学を象徴するシンボルの一つとなってゆくはずだが、同館にはギャラリー以外にも作品展示

を想定して設計されたエリアが多数存在していることはあまり知られておらず、活用もされていない。

そこで、この調査では明窓館内のギャラリー以外の展示可能スペースを調べ、壁面やフロアの寸法を実測し、ピクチャーレールやスポットライト、プロジェクターなどの設備とともに展示準備に活用できる図面を作成することとした。

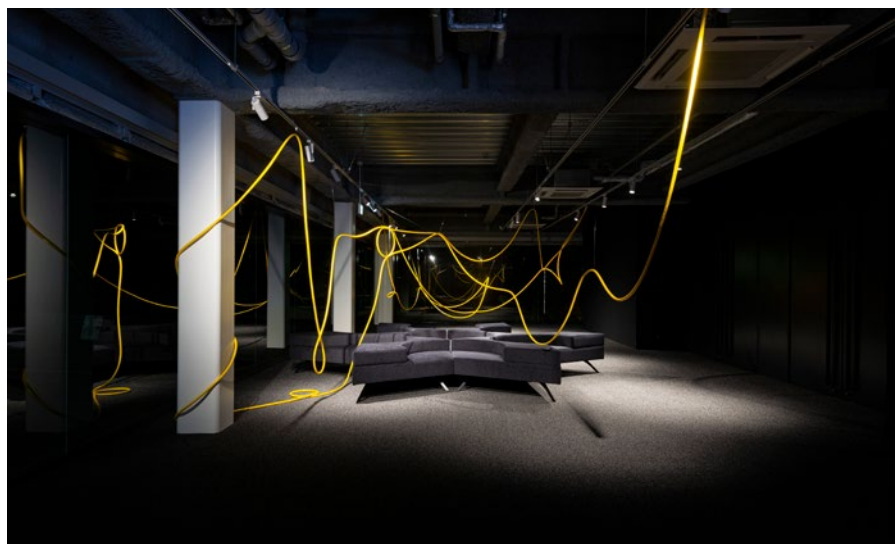
完成した図面は、大ホール前のホワイエやインフォメーション commons など、公共スペースの機能と共存する、あらたな作品展示のあり方のプランニングに必須の資料である。

今後の課題としては、各展示スペースの予約受付、備品貸し出し、管理支援などをどの部署が管轄するか、展示中の作品管理などをどのように考えるかなど、運用面での検討が引き続き必要である。これらのスペースが学生らが気軽に使える展示スペースとして活用され、大学全体にクリエイティブな空気が広まることを期待する。

デザイン学部教員 豊永政史



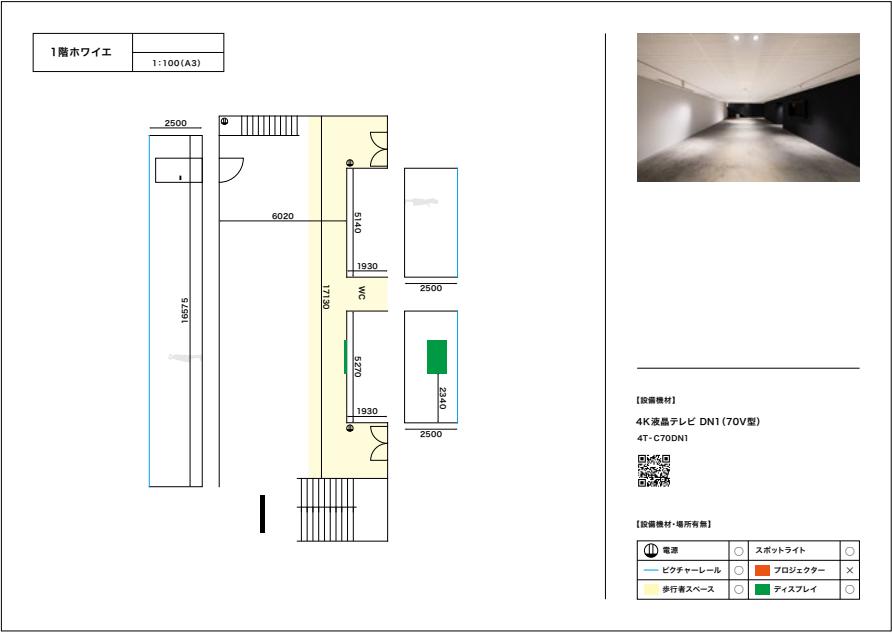
明窓館1階ホワイエ 展示の様子「アートをおく2」（2022年）



明窓館2階ホワイエ 展示の様子「アートをおく2」（2022年）

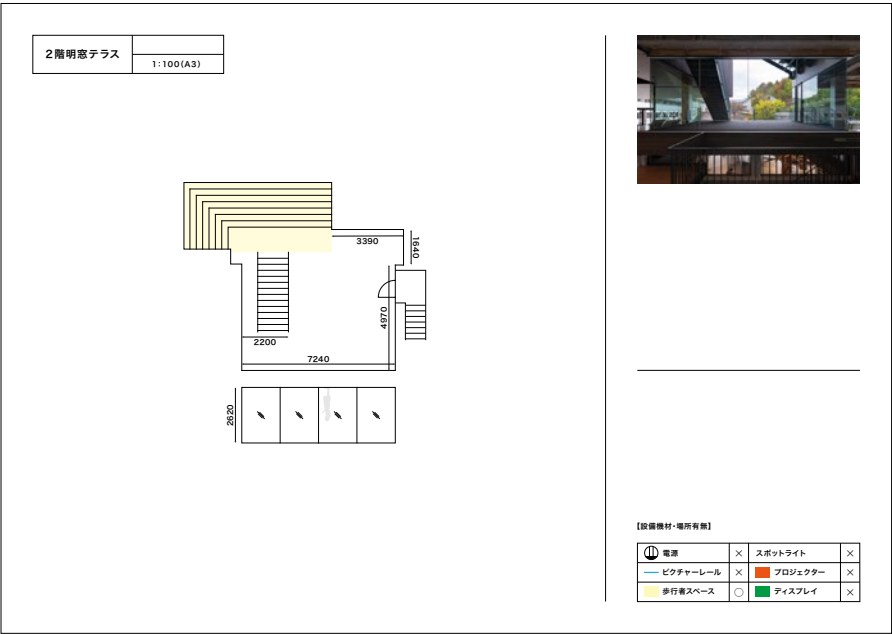
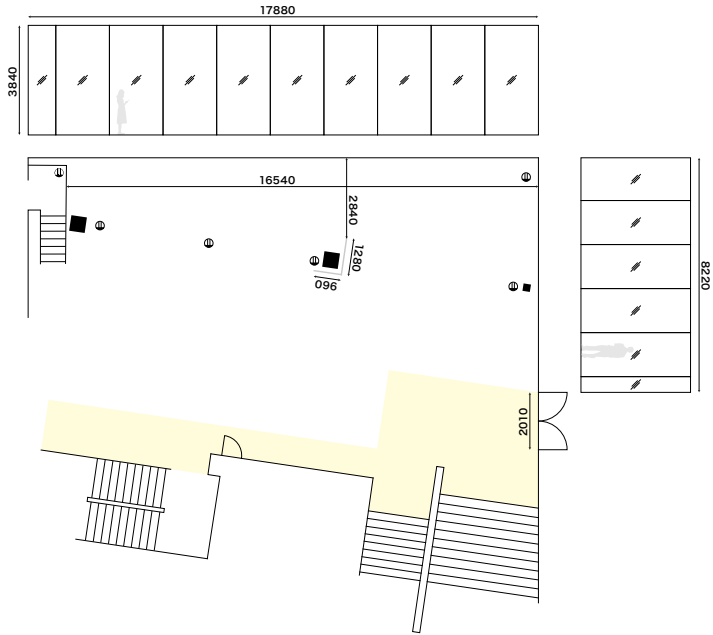


明窓館2階インフォメーション commons 展示の様子「アートをおく2」（2022年）



【設置機材・場所有無】

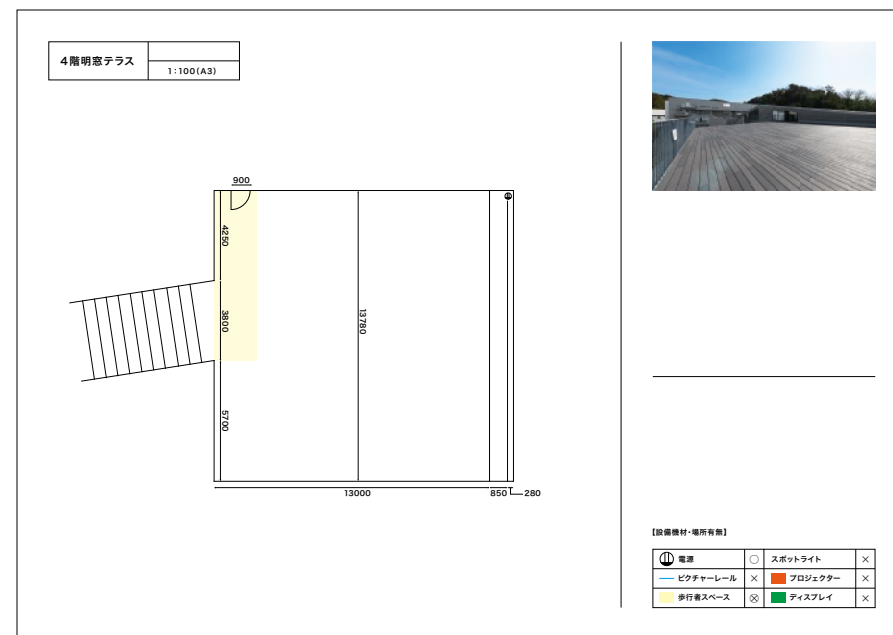
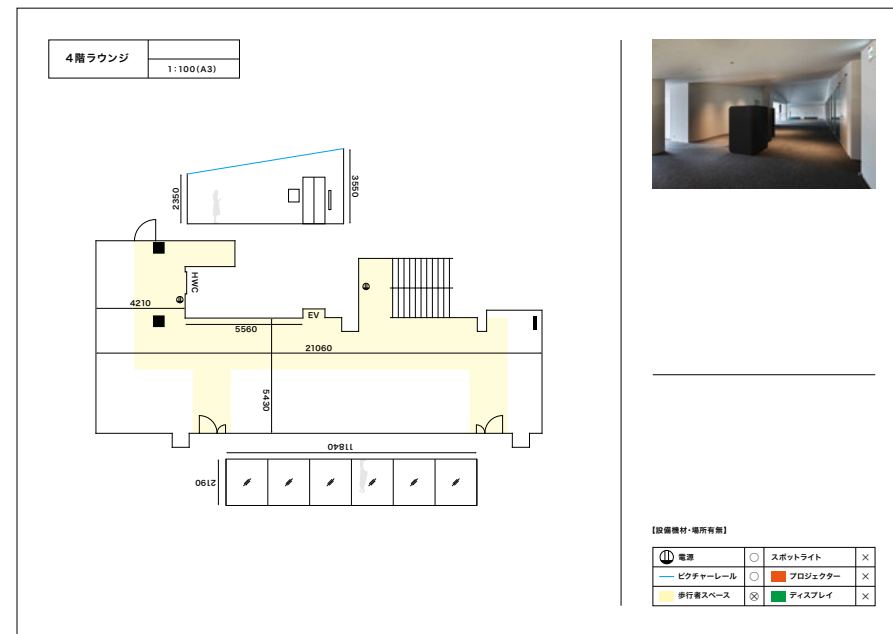
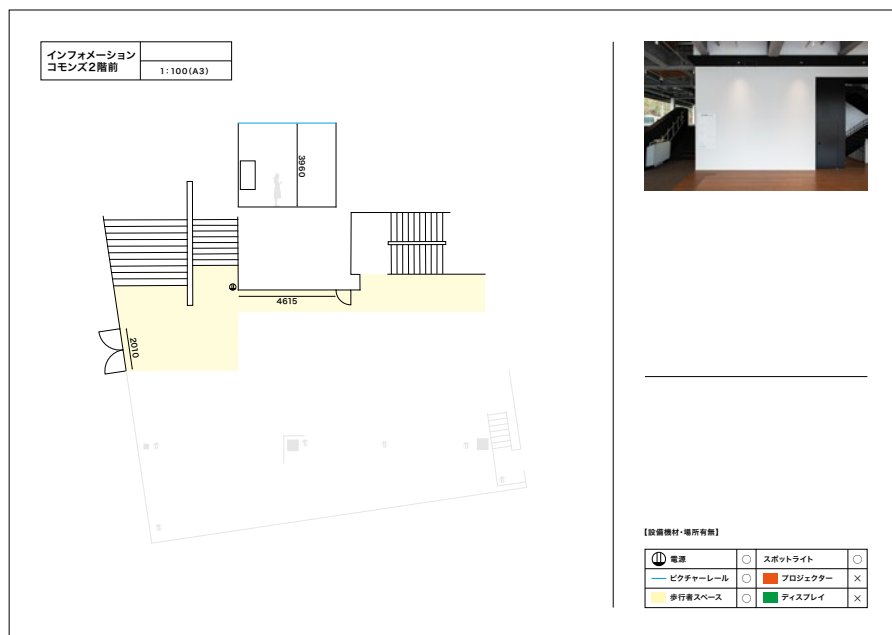
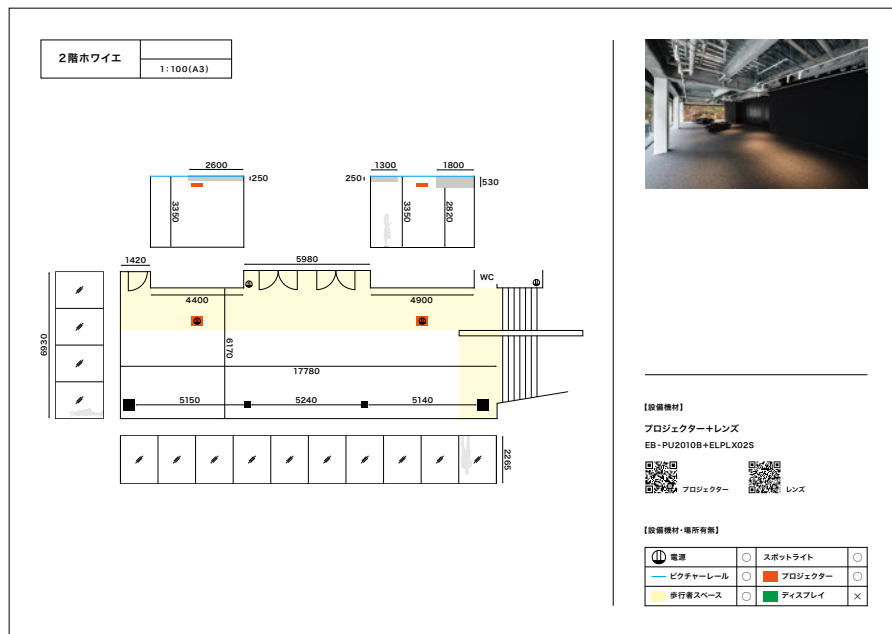
電源	スポットライト	○
ビクターレール	プロジェクター	×
歩行者スペース	ディスプレイ	○



【設置機材・場所有無】

電源	スポットライト	×
ビクターレール	プロジェクター	×
歩行者スペース	ディスプレイ	×

施設図面





GALLERY TERRA-S

展覧会 | EXHIBITIONS

侵色：開始

会 期 2023年4月20日(木) - 4月28日(金)

時 間 11:00-18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 侵色

企 画 磨田花朗

出展作家 大野真奈、完山花、笹崎凜、武田虹羽、
辻大輝、ト・シャノン・カヤ、松本玲果、
森本菜南、山崎佑介

開場日数 8日

入場者数 642人

芸術学部4年生の磨田花朗がキュレーションした9名の作家によるグループ展。立体造形、映像、版画、テキスタイル、陶芸、洋画専攻で学ぶ作家らがギャラリー空間にインスタレーションを展開した。キュレーターは作家に「赤」「黄」「緑」「青」「紫」から、自身の作品をイメージした色を選んでもらい、多様な作品同士の関係性を色相環として可視化することを試みた。ギャラリーの空間を侵食していく彼らの「色」と、それらが織り成す「関係性」を感じながら、展覧会を鑑賞者に楽しんでもいただくことを目指した。



関連イベント

トークイベント

「ディテールにこだわる」

【日時】4月23日(日)12:00-13:00

【参加作家】ト・シャノン・カヤ、磨田花朗、
森本菜南、山崎佑介

「世界観にとりこむ」

【日時】4月23日(日)14:00-15:00

【参加作家】完山花、笹崎凜、
磨田花朗、松本玲果

「空間をつくる」

【日時】4月23日(日)16:00-17:00

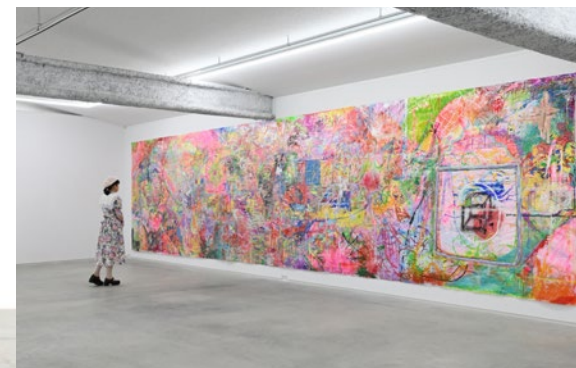
【参加作家】大野真奈、武田虹羽、
辻大輝、磨田花朗



リュウ・イティン個展 「不夜城 Sleepless Town」

会 期 2023年5月11日(木)ー5月19日(金)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 リュウ・イティン
出展作家 リュウ・イティン
開場日数 8日
入場者数 370人

デザイン学部イラストコース4年生のリュウ・イティンの個展。絵具や布、糸など様々な素材を用いてカラフルな絵画や立体、インスタレーションを制作し、多種多様な作品でギャラリー空間を埋め尽くした。幅8メートルの巨大な絵画作品や展示壁面を埋め尽くしたインスタレーション作品、身の丈より大きな自画像は来場者を驚かせた。ファッションと身体、原始的な衝動、装飾、自然のイメージなどをテーマにした作品から作家自身や家族をテーマにした作品まで、作家の幅広い世界観を表現した。



小田隆「Art & Science」 小田研究室大学院生合同展「ばけもののぼこ」

会 期 2023年5月25日(木)ー6月4日(日)

時 間 11:00-18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 小田研究室

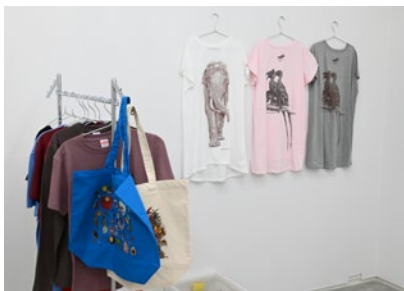
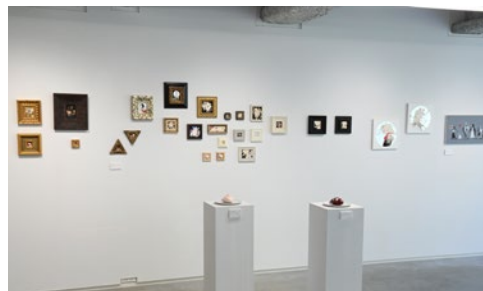
出展作家 小田隆、パク・ジウ、チョウ・コウトウ、
イン・テツ、チン・ショカ、
トウ・キンホンシュウ、リュウ・レイ、
リュウ・イチゼン、府高航平、三浦麻乃

開場日数 10日(オープンキャンパス含む)

入場者数 1,064人

マンガ学部教員の小田隆の個展と小田研究室の
大学院生7名と卒業生2名によるグループ展を
ギャラリーを二分して同時開催した。個展「Art &
Science」では小田がイラストレーターとして制作し
た古生物の復元画や生物進化のマンダラポスター
シリーズのペン画などを中心に展示した。グループ

展「ばけもののぼこ」では、実在の動植物や人間、想
像上の生き物をユーモラスに描いた作品を展示した。
ギャラリーの一室で小田が携った発行者や、小田
と学生が制作した雑貨などを販売。確かな観察力で
巧みに描かれた作品世界を多くの来場者が楽しんだ。



キャラクターデザインコース必修科目

「企画の作法」授業成果展

こんなキャラクターが
精華にいたらいいな～

会 期 2023年6月9日(金)～6月16日(金)

時 間 11:00-18:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 陳 颯

協 賛 Animore 株式会社

開場日数 7日

入場者数 503人

マンガ学部キャラクターデザインコースの1年次必修科目の実習授業「企画の作法」の成果発表展。教員の指導のもと、学生がグループワークで本学のオリジナルキャラクターを企画・制作した。本展では過去と同授業で生まれたキャラクターのパネル展示を行い、来場者投票を行った。投票の結果、アイデアの神様「セイカミサマ」、長く本学に生息し道案内をしてくれる「コイドン」、絵の具でできた猫のような不思議な生き物「けものぐ」が上位を占めた。展覧会を通じて、授業成果を披露すると同時に、今後の授業の展開にもつながる調査機会となった。



ギャラリー Terra-S 前期企画展

「デザイン・ダンボール & ダンジョン
ー遊びのデザインを探るー」

会 期 2023年6月30日(金)ー8月6日(日)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学
企 画 伊藤ガビン(京都精華大学メディア表現学部教授)
コラボレーター 会田大也(山口情報芸術センター(YCAM)学芸普及課長、エドゥケーター)
開場日数 33日
入場者数 1,600人

企画者にメディア表現学部教員の伊藤ガビンを迎え、「遊びのデザインを探る」をテーマに、ギャラリーにダンボールを主素材とした巨大な迷路が出現した。迷路は観客の手によって改変可能で、展示期間中刻々と変化し続けた。本展は、メディア表現学部の授業内容と連動しつつ、大人も子供も楽しむことができて、「鑑賞」もできる展示を目指し、メディア表現学部の教員や学生が企画運営に多数参加し、ダンボール迷路の設営や会場のグラフィックデザイン、インタビュー動画の作成、ウェブカメラの運用などを行った。夏休み期間中の開催だったため、近隣の小学生や親子連れの来場が目立ち、日々迷路は劇的に変化し、ギャラリーが賑やかな「遊び場」となった。



グラフィックデザイン 加瀬透

関連イベント

オープニングイベント

【日時】6月30日(金)17:00-18:00

【出演】伊藤ガビン(本展企画者)、
会田大也(本展コラボレーター)

【会場】明窓館3F ギャラリーTerra-S

トークイベント「遊びってデザインできる？」

【日時】7月14日(金)17:00-18:30

【出演】犬飼博士(運楽家)、会田大也

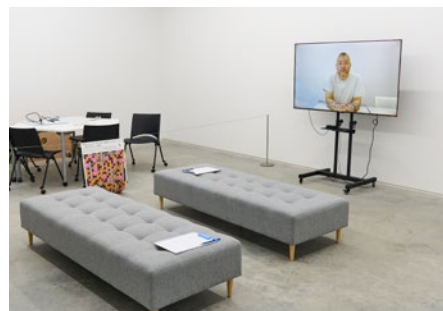
【会場】明窓館3F ディスカッションスペース5

トークイベント「野蛮な遊び」

【日時】7月28日(金)17:00-18:30

【出演】飯田和敏(ゲーム作家、立命館大学映像学部教授)、伊藤ガビン、会田大也

【会場】明窓館3F ディスカッションスペース5





合同陶芸展

会 期 2023年8月31日(木)～9月2日(土)
 時 間 11:00-18:00
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
 主 催 合同陶芸展実行委員会
 出展大学 京都精華大学、嵯峨美術大学、
 京都市立芸術大学、京都芸術大学
 開場日数 3日
 入場者数 166人

京都で陶芸を学ぶ学生の交流と発表の機会として2010年より毎年開催され、今年で13回目を迎えた京都精華大学、嵯峨美術大学、京都市立芸術大学、京都芸術大学の合同展。ギャラリー Terra-S での開催は昨年度につづき2度目となった。伝統工芸としての陶芸から現代の表現としての陶芸まで、幅広い陶芸による表現の可能性を探ることを目指した。器から立体造形、パフォーマンスまで多様な陶芸作品がギャラリー空間に展開した。ギャラリー前のアクティビティコモンズではカフェ&ショップスペースを設け、珈琲店「おぼろ」が来店。器とコーヒーが楽しめる開かれた雰囲気でお客を迎えた。



フォック・チン個展 「You are Invited」

会 期 2023年9月7日(木)ー9月15日(金)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
主 催 フォック・チン
出展作家 フォック・チン
開場日数 8日
入場者数 134人

大学院芸術研究科博士前期課程版画領域2年生のフォック・チンによる個展。作家は版画技法を用いて本展の案内状を制作し配布した。ギャラリーには机や棚などの家具や額、木枠、アクリルケース、ホワイトボードなどが点在しており、案内状を携えた来場者は用意されたクリップやテープなどを使って思い思いに案内状を展示した。展示された案内状は人の訪れの痕跡を示すものとなり、ギャラリー空間に置かれると同時に作品へと変容した。案内状の制作から展覧会実施までを通して、版画技法の意味と可能性を広げる試みとなった。



プロジェクト SaShiMi「海闊天空」

会 期 2023年9月23日(土)～9月29日(金)
時 間 11:00～18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主 催 プロジェクトSaShiMi
出展作家 小山正悟、鷹取三奈、山本紗穂
開場日数 6日
入場者数 225人

芸術学部とマンガ学部2年生の3人展。異なる感性、技法で制作する3人が、同じテーマをもとに共同して空間を創り上げた。参加作家の鷹取が制作したマンガ『出逢い』と『泡沫』は、海を舞台に世界の壮さと人が社会で生きることの悩みをテーマにした作品である。本展は、この2つのマンガの物語から着想を得て描かれた海中の世界やキャラクターのイラスト・絵画で構成され、原作のマンガも閲覧できるように展示した。油絵や水彩、ペンなどで描かれた壮大な「海」の世界は来場者の眼を楽しませた。



Haliyaa個展

平凡な一日 (エンギーン ネグ ウッドル)

会 期 2023年9月23日(土)ー9月29日(金)
 時 間 11:00-18:00
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
 主 催 Haliyaa
 出展作家 Haliyaa
 開場日数 6日
 入場者数 225人

デザイン学部イラストコース4年のHaliyaaの個展。タイトルの「エンギーン ネグ ウッドル」はモンゴル語で、「平凡な一日」の意味。内モンゴル出身の作家は故郷の記憶やノスタルジーをテーマに作品を制作。モンゴルの日常の風景や食習慣をモチーフに、デジタルツールやシルクスクリーンで制作されたイラスト

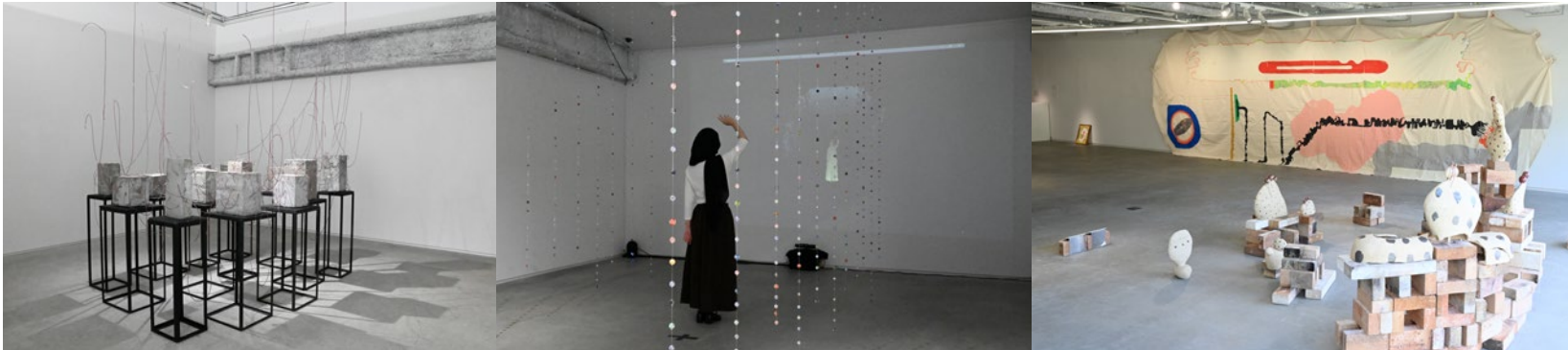
や発泡スチロールで作られた立体作品などが並んだ。展示の一部にコミュニケーションボードの作品を設置。来場者が自分の母語でメッセージを書いたり、作家にモンゴル語を教わる交流が生まれた。展示を通じて、遠い内モンゴルの大地を旅したように感じる展示空間となることを目指した。



MI

会 期 2023年10月5日(木)－10月10日(火)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 M1有志
出展作家 グ・シシ、コウ・ヒョウセイ、コウ・ピカ、
ジョ・ジハン、武田 葵 マーリィ、福岡梨水、
的野哲子、ヌルール・シュハダ
開場日数 5日
入場者数 332人

大学院芸術研究科博士前期課程に在籍し、版画、テキスタイル、陶芸、映像、立体造形領域で研究・制作する8名によるグループ展。展覧会タイトルの「MI」は大学院（Master）一年生の「M1」からつけられた。作家はそれぞれ「実」「見」「身」「未」「微」「美」「観」から一つの言葉を選んで作品を制作し、「自分にとっての表現とは何か?」という問いを共有しながら個々の研究と制作を深めて新しい表現を試みた。さまざまな素材とメディア、技法で制作された実験的なインスタレーション作品がギャラリー空間に展開した。



CAMERA OBSCURA

～音と映像の遊戯室

京都精華大学展

会 期 2023年10月16日(月)～10月20日(金)

時 間 11:00-18:00

会 場 京都精華大学ギャラリー Terra-S

主 催 TRANS-ART

出展作家 泉尾祥子、牛山泰良、
RAKASU PROJECT.(落見子)、
笠井美里、堤本禮太、平野砂峰旅、
堀尾充、的場智美、宮崎しずか、若尾裕

開場日数 5日

入場者数 427人

メディア表現学部教員の落見子と平野砂峰旅が参加する本展は、2007年より広島市東区民文化センターにて毎年開催されてきた展覧会で、ギャラリー Terra-S では初開催である。参加作家は「音と映像の遊戯室」をテーマに、実験的なメディア表現活動を行ってきた。近年は広島を拠点とする映像作家と、

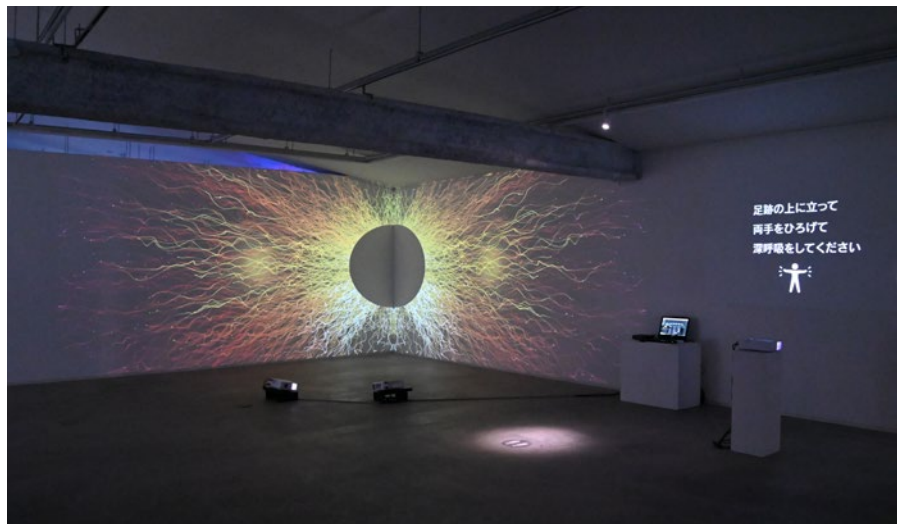
関連イベント

音響ライブ

【日時】10月20日(金)18:00-19:00

【出演】牛山泰良、RAKASU PROJECT.(落見子)、
堤本禮太、平野砂峰旅、若尾裕

本学教員を中心にした音響作家が参加している。17回目を迎えた本展ではインタラクティブな作品も加わり、来場者の参加により刻々と変化する展示空間に挑戦した。最終日には音響作家によるライブイベントを行い、参加者はギャラリー空間にひろがる様々な音を楽しんだ。



京都精華大学
嵯峨御流華道同好会 第26回華展
「さゆらぎ」

会 期 2023年10月27日(金)ー10月28日(土)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学嵯峨御流華道同好会
後 援 はな古伝
開場日数 2日
入場者数 225人

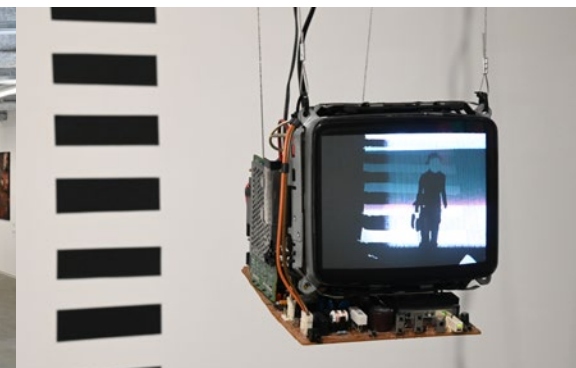
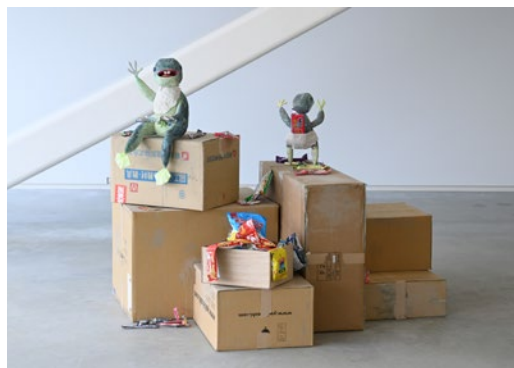
嵯峨御流華道同好会「華展」の第26回目の展覧会。
会員たちは自然の美しい造形をさらに引き立てるために、日頃から鍛錬を重ねている。自然の植物は静止しているように見えても常に揺らいでいる。様々な環境に適応して生きる植物の小さな揺らぎ「さゆらぎ」から、日々を柔軟に生きる大切さを感じてほしいという思いを込めてタイトルとした。展示では花器に活けられた草花だけではなく、竹を組み合わせたダイナミックな空間作品や、窓際の広い空間に大壺を配し大きな枝を活けた作品たちがギャラリーを彩った。



木野祭 2023 作品展示会「闇鍋」

会 期 2023年11月3日(金・祝)－11月4日(土)
 時 間 11:00-18:00
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
 主 催 2023年度木野祭実行委員会
 開場日数 2日
 入場者数 1,861人

「木野祭 2023」の作品展示会「闇鍋」を開催した。今年の木野祭はコロナ禍以降、初めてとなる対面のみの開催となった。本展では、本学の学生、教職員を対象に作品を募集し、応募作品を展示した。展覧会タイトルの「闇鍋」は木野祭のテーマであり、いろんな「味」が同じ鍋で煮込まれて一体となる「闇鍋」のような空間を目指した。久しぶりの対面開催となり、会期中は近隣住民などを含めて多くの来場者があり、絵画、写真、立体、映像、インスタレーション、自主製作映画など様々な作品を来場者にお楽しみいただいた。



京都精華大学 55 周年記念展
「FATHOM—塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン」

会 期 2023年11月17日(金)－12月28日(木)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学
企 画 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター
特任教員／ギャラリーTerra-Sキュレーター)
吉岡恵美子(京都精華大学芸術学部教員)
展 示 齋藤雅宏(京都精華大学ギャラリーTerra-S展示コーディネーター)
コーディネーター
出展作家 塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン
開場日数 36日
入場者数 4,477人



グラフィックデザイン 塩谷啓悟

開学 55 周年記念展として、国内外で目覚しい活躍をみせる卒業生のアーティスト、塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエンによる展覧会を開催した。作家たちは本学の芸術学部で洋画を専攻し、現在とはともに「絵画」の範疇を飛び出し、多岐にわたる表現領域で活動を展開している。「fathom (ファゾム)」とは、人が両手を左右に広げた時の幅に由来する「身体尺」の

ひとつで、水深を測るのに用いる単位を意味する。自らの身体行為をとおして何かを探り、浮かび上げらせようとする 3 名に共通する態度・手法を象徴的に表した。本展では、ギャラリーを 3 つのフロアに分けて、三者三様のダイナミックなインスタレーションを展開した。学内外から話題を集め、ギャラリーの企画展のなかでは史上最多の来場者数となった。

関連イベント

パフォーマンス「ソー・ソウエン-Eggsercise」
【日時】11月17日(金)11:00-15:00
【会場】明窓館2F エントランスほか

オープニングトーク
【日時】11月17日(金)17:00-18:00
【会場】明窓館3F ギャラリーTerra-S ほか
※アーティストトーク終了後、レセプション開催

アセンブリーアワー講演会
「塩田千春-1000の夢を描く」
【日時】11月18日(土)14:00-15:30
【講演者】塩田千春 【会場】明窓館2F 大ホール
【モデレーター】吉岡恵美子 【第二部聞き手】生駒泰充、佐川晃司(京都精華大学 芸術学部洋画専攻 教員)

京都精華大学大学院 芸術研究科特別講演会
「金沢寿美-消して、みる」
【日時】12月27日(水)16:20-17:50
【講演者】金沢寿美(美術家)
【聞き手】小松敏宏(京都精華大学 芸術研究科長)
【会場】黎明館2F L-201
【主催】芸術研究科

キュレーターによるギャラリートーク
【日時】12月9日(土)14:00-15:00
12月23日(土)14:00-15:00
【会場】明窓館3F ギャラリーTerra-S





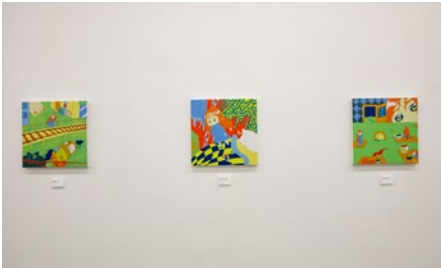
浜村満果個展「9 Hours Sleep」

会 期 2024年1月17日(水)－1月22日(月)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主 催 浜村満果
出展作家 浜村満果
開場日数 5日
入場者数 237人



デザイン学部デジタルクリエイションコース卒業生の浜村満果の個展。人の記憶が作り出した「夢＝異世界」への関心から展覧会タイトルを「9 Hours Sleep」とした。本展では夢をテーマにした新作を発表。毎日みる夢は脈絡のない曖昧な存在ではなく、現実の自分と繋がる確かなもう一つの世界だと考え

た。これまで制作したマンガやイラストレーション、アニメーションも多数展示。日々の出来事や身の回りの事象を独特の視点でとらえ、ポップで柔らかい線と色で表現した。展覧会を通じて、夢と日常を行き来するような世界観を表現した。



Gallery Hibika-S —音響空間を展示する—

会 期 2024年1月17日(水)ー1月22日(月)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
主 催 メディア表現学部音楽表現専攻3年
社会実践実習谷口クラス
出展作家 fujimalu、IRIGINO、mis、
paddy blue、Tokiwa、杏珠、
小升健慎、谷口文和、田村那由多
開場日数 5日
入場者数 237人

関連イベント
トークセッション
【日時】1月20日(土)16:00-18:00
【ゲスト】福田貴成(東京都立大学)

メディア表現学部音楽表現専攻教員の谷口文和が担当する3年次の「社会実践実習」において制作された音響作品の展示。音は空間を知覚する上で欠かせない情報であることから、空間を経験するメディアとして音を捉えなおすことを試みた。9名の出品者はそれぞれに「別の空間を聴覚的に体験する音響空

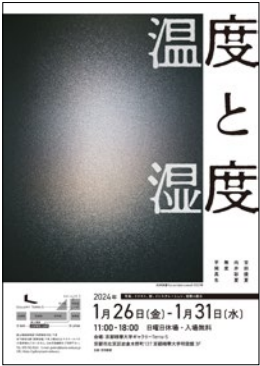
間」を目指した音響作品を制作。大きな窓に面したギャラリーの空間に12台のスピーカーを配置し、多種多様な音響空間が生まれた。会期中には音メディアと空間表現の関係について理解を深めるためのトークセッションを実施した。



温度と湿度

会 期 2024年1月26日(金)ー1月31日(水)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主 催 吉田優夏
出展作家 平岡真生、向井彩夏、無度、吉田優夏
開場日数 5日
入場者数 360人

デザイン学部卒業生4名によるグループ展。平岡は展示室に一人暮らしの部屋を設えて、友人の一日の生活スケジュールを真似して振る舞うパフォーマンスを行った。向井は祖父から譲り受けたフィルムカメラで、日々の出来事の折に撮影した風景や人物写真を展示。無度は心情を詠んだ短歌を透明のアクリル板などに書き、空間に点在させて展示した。吉田は親密な人間関係や感情がもつ質感を毛糸のオブジェや言葉が刻印されたアクリルのパズル、インスタントカメラを用いた参加型作品などで表現した。作家が感じる他者や社会への感覚が映し出された作品が空間に並び、それぞれの空気感が混ざり合い、様々な温度と湿度を感じるような展示空間となった。



Kaleidoscope: 藤井俊治／柴田精一

会 期 2024年1月26日(金)－1月31日(水)
 時 間 11:00-18:00
 会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
 主 催 京都精華大学現代アートプロジェクト
 実行委員会
 企 画 藤浦心音、松尾風花、松田紫馬、
 鍋倉悠希、中村琴梨
 監 修 吉岡恵美子(京都精華大学芸術学部教員)
 出展作家 藤井俊治、柴田精一
 開場日数 5日
 入場者数 360人

芸術学部の授業「表現研究 3,4」、「現代アートプロジェクト演習 4」を通じて学生が自ら立案した企画展。絵画作品の持つ色彩や線、材料、モチーフなどによる多層性に着目。美術作家の藤井俊治と柴田精一を選出し彼らの表現世界を Kaleidoscope (万華鏡) になぞらえた。藤井はティアラや鏡といったモチーフを油彩やアルミ箔などを用いて描き、価値のうつろい

関連イベント

アーティストトーク「藤井俊治×柴田精一」

【日時】1月31日(水)17:00-18:00

【会場】ギャラリーTerra-S

や存在の儚さを感じさせる絵画作品を出品。柴田は折り畳んだ色紙を気の赴くままに切り出し重ねて、唯一無二のイメージを表出させる「紋切重」の手法を用いた紙作品に加え、切り出した紙を型紙として用いて絵の具を重ねていく絵画作品を出品。展示空間に立体的に配された両氏の作品は、来場者の移動によって視点が変わることで様々な表情をみせた。

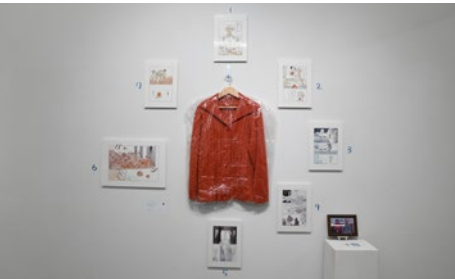


プロジェクト企画演習 2023成果展

会 期 2024年2月5日(月)－2月10日(土)
時 間 11:00-18:00(最終日16:00まで)
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学
監 修 伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任教員)、
はが美智子(アート・メディエーター、京都市立芸術大学芸術資源研究センター非常勤研究員)

出展作家 芸術研究科:グ・シン、グ・ムシ、コウ・ピカ、
コウ・ヒョウセイ、チョウ・ジンユ、
チョウ・チョウデンエン、チョウ・メイゲツ、
ヌルール・シュハダ、橋本龍舞、三木梨々花
デザイン研究科:チョウ・ラクテン、
モ・イチハン、キョウ・キンレイ、今野優摩、
シン・シコウ、モウ・コウエキ、ヨウ・エン
マンガ研究科:コ・ヨンチャン、バク・ジウ、
 IPP・チチェン、イン・テツ、ゴ・カ、
オウヨウ・キン、オナル・ハムルジュルメイサ、
チン・ショカ、ティ・イチダク、
トウ・キンホンシュウ、ニー・イーリン、
ハン・ウガ、メサントスワン・スパカン、
リュウ・イチゼン、リュウ・ジョエイ、
リュウ・レイ、リン・シンロ、リン・ラクカ

開場日数 6日
入場者数 254人



2023年度の「プロジェクト企画演習」を履修した大学院芸術研究科、デザイン研究科、マンガ研究科の一・二年生の有志 35 名がそれぞれの研究・制作の成果を発表した。授業をと
おして、展示レイアウトの検討や広報物の制作
など、展覧会を開催するために必要な様々な
要素を学び、各研究科が協働して展示空間を
作り上げた。会期中には関連イベントとして、
出品者が観客の前に出品作品について説明す
る公開プレゼンテーションを研究科ごとに開
催。ゲストを招いて作品に関する批評や展示
方法についてのアドバイスなど、今後に繋がる
貴重な意見をいただいた。

関連イベント

出品者による公開プレゼンテーション
【日時】2月9日(金)10:30-16:00
10:30-12:30 マンガ研究科
ゲスト: 倉持佳代子(京都国際マンガ
ミュージアム学芸員)
13:00-14:00 デザイン研究科
ゲスト: 刀根彰吾、安間仁美(デザイナー/mondo)
14:30-16:00 芸術研究科
ゲスト: 藤野裕美子(美術作家)



京都精華大学展 2024大学院修了発表展

会 期 2024年2月14日(水)－2月18日(日)

時 間 10:00-17:00

会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S

主 催 京都精華大学

出展作家 芸術研究科:(日本画領域)久保遥、
倉橋咲妃、シュウ・シユウ、寺田祐介、
富永拓真

(洋画領域)セイ・テン

(染織)藤村明日香

(版画)齋藤梨恵、チョウ・ゴモク、

フォック・チン、前川琴瑚

(陶芸)吉田麻央

(映像)ギ・シンエツ、コウ・シンケン、

リュウ・カイン

マンガ研究科:(実技領域)ソウ・ケイブン、
パク・ジウ

開場日数 5日

入場者数 3,130人



関連イベント

公開作品講評会

【日時】2月16日(金)13:00-16:00

【ゲスト】井波吉太郎氏(東京都現代美術館学芸員)

「京都精華大学展 2024 —卒業・修了発表展—」
における大学院芸術研究科 15名とマンガ研究科 2
名の展示。芸術研究科の日本画、洋画、染織、版画、
陶芸、映像の各領域とマンガ研究科の実技領域の
修了生が大学院での二年間の制作・研究の成果を
発表した。



池垣タダヒコ退任展 「リボンと角柱 - オリジナリティを探して」

会 期 2024年2月29日(木) - 3月9日(土)
時 間 11:00-18:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 池垣タダヒコ退任展 実行委員会
出展作家 池垣タダヒコ
開場日数 9日
入場者数 955人

芸術学部版画専攻で27年間教鞭をとった本学教員、池垣タダヒコの退任記念展。本展は池垣の作品の源泉であるドローイングとキャリア初期に取り組んだ銅版画や石膏刷りによるレリーフ、1980年代の「関西ニューウェーブ」の中心的な存在の一人として注目を浴びることとなった銅板による立体作品を多数展示した。さらに近年の作品と本展に合わせて制作したインタビュー動画を含めて、計179点の作品がギャラリー空間を埋め尽くした。40年以上の業績を振り返り、現在まで続く作家の制作の源泉と本質に迫る機会となった。



関連イベント

アーティストトーク

【日時】3月2日(土)15:00-17:00

【出演】奥村泰彦氏(和歌山県立近代美術館副館長)

木村秀樹氏(画家/版画家、京都市文化功労者)、池垣タダヒコ

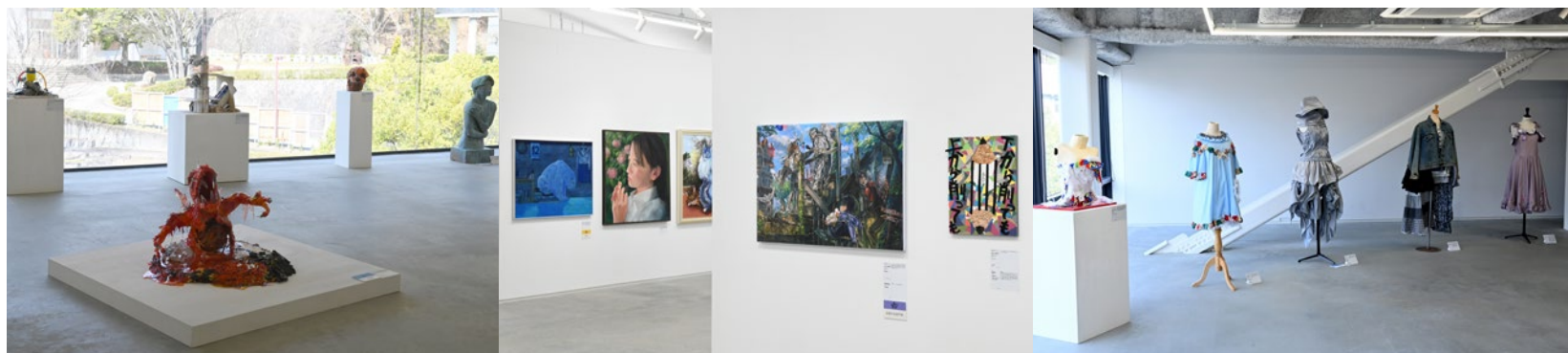
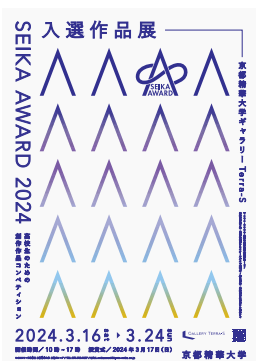
【会場】明窓館4Fラーニングコモンズ



高校生のための第5回
創作作品コンペティション
「SEIKA AWARD 2024」
入選作品展

会 期 2024年3月16日(土)～3月24日(日)
時 間 10:00～17:00
会 場 京都精華大学ギャラリーTerra-S
主 催 京都精華大学
開場日数 9日
入場者数 395人

高校生の自由な創作活動の応援と、新しい才能の発見を目的としたコンペティション。第5回目となる今回のテーマは昨年に引き続き、「世界」。全国から974点の応募があり150点が入選した。本展では美術・工芸、デザイン、マンガ、メディア、文章、授業作品の6部門の受賞・入選作品を展示。入選作品のなかから教職員による厳正な審査のもと、43点をグランプリほか入賞作品として選出し、会期中に授賞式を実施した。全国各地から集まった高校生の多彩な作品を多くの来場者にお楽しみいただいた。



香老舗 松栄堂 薫習館
展示壁利用2023年度

会 期 2023年3月31日(金) - 2024年3月28日(木)
時 間 10:00-17:00
会 場 香老舗 松栄堂 薫習館1F
所 在 地 京都市中京区烏丸通二条上ル東側(入館無料)

本学の社会連携の一環として、株式会社松栄堂の施設「薫習館」1階の展示壁に、2020年12月より、本学ゆかりの若手作家の作品展示を行っている。2023年度は7名の作家を紹介した。香り文化の情報発信拠点である薫習館は、香りを体験できるスペースや企画展示室、イベントができるロビーなどが設けられ、本店ショップも隣接していることから、観光客も訪れる施設である。多彩な作品が多くの来館者の目に触れる機会となった。



橋口桃子(デザイン学部卒業生)
2023年3月31日(金)～

VIBES PORTRAIT
2023 デジタル



田中日菜(芸術学部卒業生)
2023年5月16日(火)～

ここなんだった?
2023 高知麻紙、水干絵具、墨、顔彩、鉛筆



的野哲子(芸術研究科1年生)
2023年7月4日(火)～

uneliの眩き
2023 帆布、顔料、アクリルガッシュ、バインダー



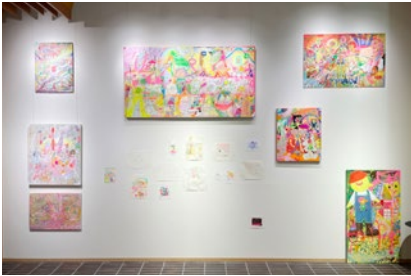
高橋桜介(マンガ学部卒業生)
2023年8月21日(月)～

Be: make
2023 アクリルマウント、キャンバス



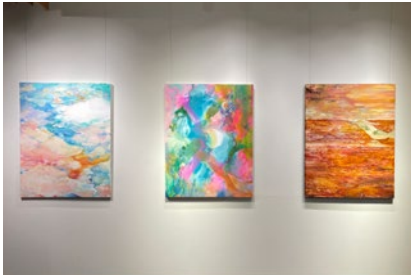
リュウ・シュンジョ(芸術学部4年生)
2023年10月16日(月)～

home of memory
2023 キャンバスに油彩



リュウ・イティン(デザイン学部4年生)
2023年11月22日(火)～

In joy9s
2023 アクリル、色鉛筆、パステル、カラーペン、グリッターグルー、シルクスクリーン



石田優子(芸術学部4年生)
2024年1月30日(火)～

「空」「海」「土」
2023 キャンバスに油彩

2023年度 ギャラリー来場者数 | NUMBER OF VISITORS

展覧会名	来場者数
申請展 「侵色：開始」	642
申請展 「リュウ・イティン個展『不夜城 Sleepless Town』」	370
申請展 「小田隆展『Art & Science』／小田研究室大学院生合同展『ばけものばこ』	1,064
申請展 「こんなキャラクターが精華にいたらいいな〜」 キャラクターデザインコース必修科目『企画の作法』授業成果展	503
企画展 「ギャラリー Terra-S 前期企画展」 『デザイン・ダンボール & ダンジョンー 遊びのデザインを探るー』	1,600
申請展 「合同陶芸展」	166
申請展 「フォック・チン個展『You are Invited』」	134
申請展 「プロジェクト SaShiMi『海闊天空』」	225
申請展 「Haliyaa 個展『平凡な一日(エンギーン ネググ ウッドル)』」	
申請展 「MI」	332
申請展 「CAMERA OBSCURA〜音と映像の遊戯室 京都精華大学展」	427
申請展 「京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第26回華展『さゆらぎ』」	225
その他 「木野祭 2023 作品展示会『闇鍋』」	1,861
企画展 「京都精華大学 55周年記念展『FATHOMー塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン』」	4,477
申請展 「浜村満果個展『9 Hours Sleep』」	237
申請展 「Gallery Hibika-Sー音響空間を展示する」	
申請展 「温度と湿度」	360
申請展 「Kaleidoscope：藤井俊治／柴田精一」	
その他 「プロジェクト企画演習 2023 成果展」	254
その他 「京都精華大学展 2024 大学院修了発表展」	3,130
申請展 「池垣タダヒコ退任展『リボンと角柱ーオリジナリティを探して』」	955
その他 「高校生のための第5回創作作品コンペティション 『SEIKA AWARD 2024』入選作品展」	395
年間合計	17,357

イベント名	参加者数
教育普及事業 「アートをおく3」	22
教育普及事業 「アートをやる3」	44
年間合計	66

施設案内 | GENERAL INFORMATION

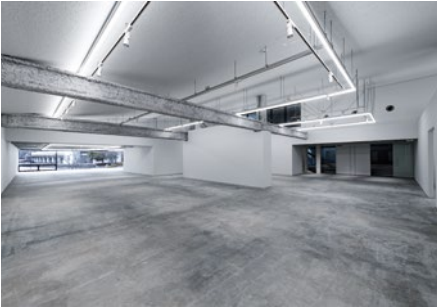
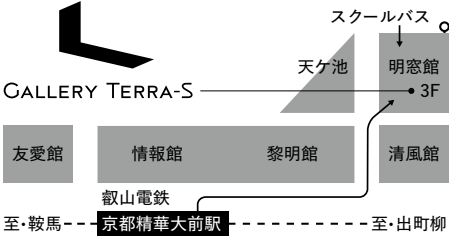
京都精華大学 明窓館3F
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開場日 | 展覧会開催期間

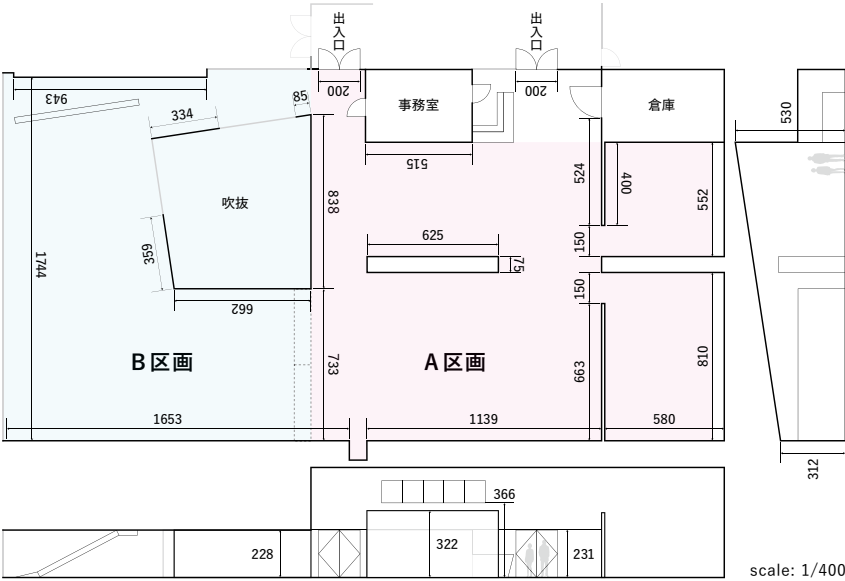
休場日 | 日曜日・祝日・大学が定めた日

開館時間 | 11:00-18:00 (展覧会により異なる)

入場料 | 無料



ギャラリー図面 | FLOOR PLAN





京都精華大学 展示コミュニケーションセンター 2023年度活動報告書

編集 伊藤まゆみ、齋藤雅宏（京都精華大学展示コミュニケーションセンター）

編集補 波賀野文子、村田のぞみ

デザイン 花戸麻衣

撮影 花戸麻衣（p.4,8-11,12左,14,15）、松見拓也（p.32,33下,34,35）

山神美琴（p.33上）、表恒匡（p.53-55,76,77）、

浜村晴奈（p.56,57）、澤田華（p.68,69）

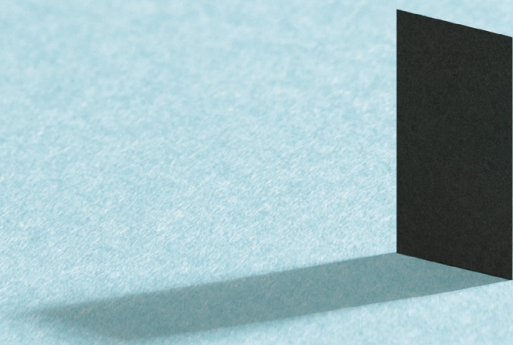
発行 京都精華大学

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

www.kyoto-seika.ac.jp/

発行日 2024年4月23日

塩田千春《夢について》2023



GALLERY TERRA-S